

外国人材活用企業を 強力サポート

監理技術者講習などの法定講習事業を展開している株式会社日建学院(東京都豊島区、近藤伸彦社長)は、ノートパソコン型の学習専用機を活用した外国人材向けの「日本語能力試験(JLPT)合格対策講座」の本格的な運用を始めた。2027年4月に新たに「育成就労制度」が施行され、JLPT受験が努力義務から法

律に基づく義務へ移行するのに伴い、「Wi-Fi環境が整備されていない場所でも、国内外を問わず電源さえあれば就労開始までに自主学習ができるメリットがある」と、あえてノートパソコン型にこだわった機器を開発し、普及に努める近藤社長に取り組みの経緯や意義などを聞いた。



近藤社長

「外国人材の増加に伴い、建設現場では今、労働災害防止や職場への定着をいかに図るかが課題となっている。作業習熟度の向上に加え、安全管理や人材定着を支える基盤の一つが日本語だ。作業指示、安全ルール徹底、危険予知(KY)活動への参加、職場内コミュニケーションの円滑化など、日常業務のさまざまな場面で日本語のスキル、コミュニケーション能力の向上が求められている。こうした中、外国人の雇用を安定させたい、外国人社員の日本語能力を向上させたい、外国人社員と

言葉が通じれば、
職場はもっと強くなる。

JLPTは、日本語を母語としない人の日本語能力を測定、認定する試験。25年には全世界約190万人と世界最大規模の応募実績を誇る。初歩的な日本語知識を習得するN5から、医師や弁護士などとしても活躍できる能力の獲得を裏付けるN1まで5段階がある。

N5からN2までが対象

「JLPTは、日本語を母語としない人の日本語能力を測定、認定する試験。25年には全世界約190万人と世界最大規模の応募実績を誇る。初歩的な日本語知識を習得するN5から、医師や弁護士などとしても活躍できる能力の獲得を裏付けるN1まで5段階がある。」

日本で活躍できる 環境づくりに貢献

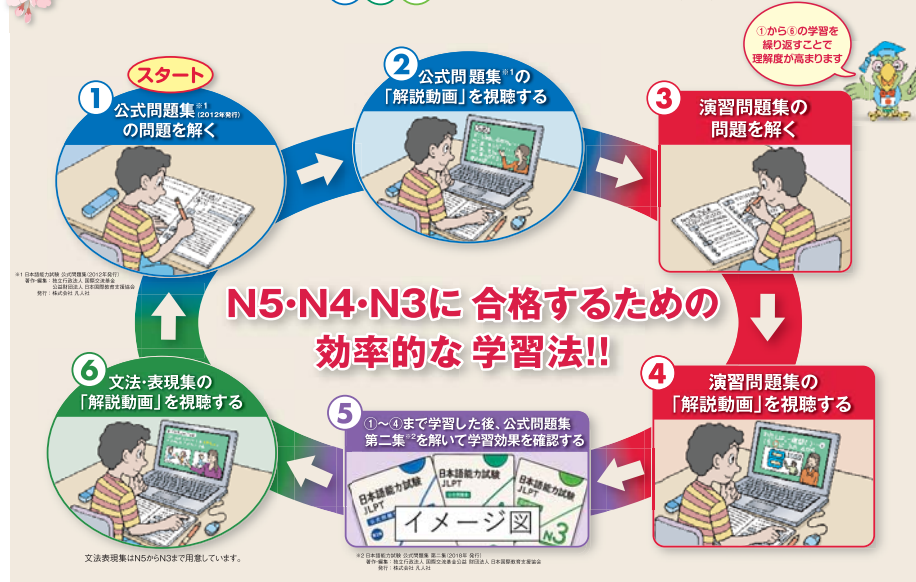
JLPT合格対策講座では、N5からN2までを対象とした構成となっている。「講座は長年にわたり建築士などの資格試験対策で培ってきた日建学院グループの教育ノウハウを日本語学習にも生かした。日本語の文字・語彙(ごい)、文法、読解、聴解などといった試験で求められる能力を、選抜された講師の動画による解説講義を柱に、体系的に繰り返し何度でも学ぶことができるノートパソコン型の日本語学習専用機『富士(ふじ)』を開発した。講座の大きな特色は四つある。一つは、数学のように積み上げ学習やさかのぼり学習ができること。N3の試験を受けようと思っ人は、N4、N5を理解し

学習専用機「富士」の特色

日本の一流教師の「動画講義」を
学習専用機で受講することができます。



学習専用機を使ったN5・N4・N3の効果的な学習のすすめ方



高まる需要に対応

これまでの講座開発の経緯について、「西生一次前会長とともに、日本語能力試験に焦点を絞りながらも、単なる試験対策を超え、職場における会話や安全確認、仲間とのコミュニケーションを通じて一人でも多くの外国人材が日本で活躍できる環境づくりに貢献したいとの思いから、繰り返し学習を重視した講座づくりを進めてきた」と振り返る。

「政府は外国人労働者の増加を踏まえ、JLPTの受験機会拡大を検討している。試験回数の充実やオンライン受験導入などが検討されており、受験需要は今後、さらに高まることは必至だ。この機会に、JLPT合格対策講座の本格的な展開に力を入れていく」と展望する。

「政府は外国人労働者の増加を踏まえ、JLPTの受験機会拡大を検討している。試験回数の充実やオンライン受験導入などが検討されており、受験需要は今後、さらに高まることは必至だ。この機会に、JLPT合格対策講座の本格的な展開に力を入れていく」と展望する。

JLPT合格対策講座の詳細は日建学院ホームページ(<https://www.nk-g.com/nihongo/>)参照。